

ギンイチモンジセセリ

Leptalina unicolor (Bremer & Grey)
チョウ目・セセリチョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

今回の調査で県内からはじめて確認された。草原性のチョウで、全国的に減少しており、特に西日本での減少が著しいとされる。県内での生息状況のさらなる調査が必要である。

種の特徴

小型。翅形は長く横長。表は黒褐色で無紋。裏は前翅も黒褐色で、前縁～外縁は黄褐色。後翅は黄褐色、中央と内縁に基部から外縁にかけて銀色条がみられる。採草地等のススキ草原に生息し、寒冷地では成虫は年1回、6～7月に出現する。暖地では成虫は年3回出現する。

分布

北海道～九州に分布。2004年6月に大野市内で初めて確認され、2014年6月にも同地域で成虫が確認されている。

生息を脅かす要因

草地の管理放棄による植生の変化が減少要因とされる。発見地周辺の草原環境で本種が発生をしているのかを確認するため、幼虫探索を含めたさらなる調査が必要である。

参考文献 環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ヒメシジミ本州・九州亜種

Plebejus argus micrargus (Butler)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：県域準絶滅危惧

【環境省カテゴリー】準絶滅危惧

選定理由

県内では三ノ峰と大野市朝日前坂で記録があり、後者は偶産とされている。今回も三ノ峰で調査を行ったが、本種は確認できず、県内の生息状況は不明である。さらなる調査の継続が必要である。

種の特徴

小型。オスの表は淡青色～紫青色、メスでは暗褐色で、一般に後翅の垂外縁に弦月状の橙斑列がある。裏は白色～褐灰色で、垂外縁に弦月状の橙斑列が目立ち、黒点列が散らばる。牧草地、農地、山地草原、湿地等に生息し、成虫は年1回、6～8月に出現する。

分布

種としては北海道、本州、九州に分布。北海道、本州北部の寒冷地をのぞいては、山地帯に生息する。県内では三ノ峰で1996年に採集されている。

生息を脅かす要因

半自然草原を生息地としているため、開発や草地の管理放棄等で生息環境が悪化すると考えられる。

参考文献 環境省 (2015)、日本チョウ類保全協会 (2012)、下野谷 (1983)、下野谷 (1996)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	

ムモンアカシジミ

Shirozua jonasi (Janson)
チョウ目・シジミチョウ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：要注目

【環境省カテゴリー】—

選定理由

今回の調査では確認できなかった。分布は非常に局地的だが、奥越地方での調査の継続により生息が確認できる可能性がある。広島県で絶滅、埼玉県では著しく減少する等、本種が減少している地域も多い。

種の特徴

小型。表は橙色、裏は黄橙色で、中室端と中央部に淡褐色条がある。自然度の高いブナ林・ミズナラ林に生息し、成虫は年1回、7月中旬～9月下旬頃までみられる。幼虫は半肉食性で、アブラムシ、カイガラムシを主食とし、ブナ科植物の葉を食べることもある。

分布

北海道、本州に分布。県内では大野市貝皿での記録があるのみ。奥越エリアを中心に調査をすれば新たな産地が見つかる可能性がある。

生息を脅かす要因

ブナやミズナラの伐採等による生息環境の変化が脅威となる。

参考文献 福井県自然保護課 (2002)、日本チョウ類保全協会 (2012)、白水 (2006)

市町別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
																○	